

所属都議の離党について

(コメント)

党への正式な表明もなく、記者会見が開かれ一方的に離党が表明されたことは大変遺憾であり、驚きをもって受け止めざるを得ません。

私たちはこれまでも、所属都議の意見を集約し、責任ある都議会最大会派として党・会派運営・政策形成過程等についてその向上に努めてまいりました。一層の改善を求めるならば、党・会派内において尽力されることが望ましかったものと考えます。

私たちは引き続き、ただひたすらに都民のための政策実現、「都民ファースト」の政策実現に向けて今後も引き続き邁進して参ります。

(談話)

本日1月7日12時頃、3名の所属都議から事務局に対して離党届・会派離脱届が提出されました。その後、13時30分から、3名と党代表との間の面会等の前に、3名によるマスコミ向けの記者会見が行われたとのことです。

私たちとしては、離党という党の重大事項に関して3名から、このように一方的なプロセスが取られたことに非常に驚くとともに、残念と感じております。その後、奥澤都議・森澤都議との間で面会し、3名の都議から正式に離党届を受け取り、その後、受理しました。

都民ファーストの会東京都議団は、責任ある都議会最大会派として、所属議員の知見や専門性を活かしながら、一丸となって都民に広く利益となる政策の実現こそが重要と考えており、その中では、必ずしも所属都議の掲げる個別の政策が実現されない場面もあり得るところです。そのような場面の中でも、東京都全体・そして所属都議の地元である各地域との利益の調和のとれた政策形成こそが「都民ファースト」の実現であると考えております。

これまで私たちは、新人議員が多い中、基本ともいえる情報管理の徹底等の基本の共有を行うと共に、所属都議の知見を最大限生かすために、既存の政党・会派には見られないようなオープンな議論の場を企画して、常任委員会に対応した部会制度における政策議論、公約ブラッシュ・アップ研究会、政調フォーラム、党規約検討委員会、支部長会議の設置など、党・会派運営等の改善に努め、「都民ファースト」「東京大改革」の実現に向けて尽力して参りました。

その観点からは、私たちは、自らの意見が全体のものとして採用されない場合であっても、一方的に他の議員を非難するのではなく、会派として一体的な政策形成・実現に向けて真摯に努力する姿勢こそ、議員のあるべき姿と考えております。

私たちは引き続き、ただひたすらに都民のための政策実現、「都民ファースト」の政策実現に向けて今後も引き続き邁進して参ります。

2019年1月7日

都民ファーストの会
代表 荒木 ちはる